

グリーンベル21と経営問題

えっ！何故？どうした経過で？ 唐突とも思える新聞報道での「グリーンベル買取も視野に仮庁舎も…」に驚きと戸惑いを感じながらの質問でした。

あれほど、消極的慎重姿勢を崩さなかった市長が…？しかし、この問題が混迷を極めてきたのは、「対策係」ができなかったからではなく市長自身の「決断力」だけではなかったかと私自身は痛感していましたので質問しました。

組織機構改正におけるグリーンベル21対策係設置の役割と業務内容について

高柳Q：先般、組織機構改正について平成26年度予算の大綱と合わせて公表されましたグリーンベル21対策係の件ですが、報道によりますと「買い取りも視野に、空床対策・地権者関係、管理費等で対立する投資会社との折衝に特化して行う云々」とし、「最大公約数を見つけるため、関係者と協議を進める」とも報じられています。

私は、こうした報道内容を目にして、違和感を持った点が二つあります。ひとつは、グリーンベル21の件では重要な場面では議会に説明と理解を求めながら進めることとされていたはずですが、二つ目は、トップである市長がグリーンベル21や沼田都市開発(株)をどうするかを決めなくては、「対策係」の意味はないと考えたからです。

残念ながら、施政方針にも多くは触れられていませんでしたので、市長自身から直接この重要案件であるグリーンベル21の所有権取得の決断に対する基本的な考え方と、この「対策係」の役割や業務内容について伺います。

市長A：現在、産業振興課商工振興係にて対応していますが、グリーンベル21における諸課題については、複雑化・多様化していますので、その諸課題の解消に向けた対応を専門的に行うため、産業振興課にグリーンベル21対策係を設置するものです。

具体的には、再生の企画及び実施に関すること、沼田都市開発(株)との連絡調整及び指導に関すること等の事務を分掌するものです。



沼田都市開発(株)の経営状況とグリーンベル21の所有権取得の決断の有無

高柳Q：沼田都市開発(株)、不動産投資会社及び出店テナントや地権者を含めた関係者への今後の対応についてです。こちらも、結局市長が基本的な姿勢を示さなければ、動いていかないと考えるわけですが、合わせて伺います。

市長A：所有者と沼田都市開発、テナントとの間で結ばれている転貸借契約に基づく相互の関係では、テナントの減少が会社の経営に直接影響しますが、これとは別に、区分所有法上の管理者として管理を委ねられているビルの維持管理に必要な管理費の枯渇が、グリーンベル21の経営を危機的な状況に至らしめている原因と言えます。



隊長が行く先を決めていないのに係に「準備せよ！」と言うようなもの？！

私は、再質問での市長とのやり取りの中で、「私が対策係長だったら、さうとう困惑します。何故なら、隊長が登山に行くのか、海水浴に行くのかを決めずに単に、用意しておくように！と命ぜられても、登山靴を用意するのか、海水パンツを用意するのか分からないでしょう？」

「今回の件で言えば、何度も言うように情報収集や様々な数値の比較をしている時間帯ではなく、市長自身が決断して方向性を明確に指し示す時で、このポジションの代わりは、市長以外は務まらないのです。」

等々を再三市長に迫ったのですが、私のプレゼン能力のせいかも知れませんが、踏み込んだ考えは聞き出せませんでした。

同僚議員の気になる一般質問

歴史的豪雪の農家・農業被害への対応について



池田地区の方のパイプハウス倒壊の被害

同僚議員Q：農業などの被害状況と被災者への対応をどう進めますか。

経済部A：農作物被害については、被害戸数で約360戸、農業用施設の被害が約1,000棟、被害総額につきましては、施設と農産物を併せて約3億4,000万円と推計しています。



平成26年度農業被害への補正予算額は約6億3千万円ですが…。

予算額は、6億2,993万6,000円の追加ですが、農業振興費で豪雪により被害を受けた農作物の樹草勢の回復及び代替作付けに要する費用の助成を行う農漁業災害対策特別措置補助金を計上するものです。

また、同じく農業振興費で、被害を受けた農産物生産施設の復旧及び撤去等に要する費用に対して緊急的な支援を行う被災農業者向け経営体育成支援事業補助金を計上するものです。



この補正予算の真価は真に農家の希望に繋がるかです

使い勝手や対象制限などが危惧される。

同僚議員の気になる予算特別委質疑

休日急患及び小児救急はどうなる？

健康課長A：新年度からの休日急患診療所は、現在のグリーンベル21から移転し、H26年3月30日(日)からは、市民体育館南側に建設中の「沼田利根医師会地域医療センター」において「休日夜間急患診療所」としてスタートすることです。開設日や診療時間については現在と同様とのことです。

夜間小児救急は、休日急患診療所と統合した形で開始されます。また、内容は小児科及び内科となり、診療日は週2日から火、水、木、金曜日の週4日となります。



オープンした沼田利根医師会地域医療センター

高柳勝巳の気になる予算特別委の質疑

子育て支援施設拠点事業

高柳Q：「子ども広場」設計業務委託場所はどこへ建設予定ですか？費用の効率性や交通の利便性を考え、公共施設配置のランドデザインや街なか活性化の大きな要素にもつながると考えられグリーンベル21での検討はされたのかも伺います？

子ども課長A：現在の広さは、約18坪と狭く、3歳以上と未満に分けて広場の実施を見込み、約45坪の確保を考えています。

場所については、申し訳ありませんが、現段階ではお伝えできません。

グリーンベル21への設置の検討では、一戸建てが基本ですが、複合ビルの中という事例もなくはありません。

グリーンベル21を「仮庁舎」として活用も視野について

高柳Q：残念ながら当局からではなく、複数の報道によりますと「近いうちに理解を得る場面を作りたい」としながら、新庁舎は現地を考えていて、グリーンベル21を仮庁舎という記載も、そこにはありませんでした。

おそらく記者発表の際のやり取りでしょうが、何故、耐震性との関連から本庁舎の話が出てこないのかも疑問に思います。そうした意味も含めて、その真意について詳しく説明願いたいと思います。

市長A：本庁舎は、間もなく築50年を経過することから、建物や設備の老朽化が進み、耐震性や市民サービスへの影響など多くの課題が見受けられます。

庁舎の整備は、市民の安全・安心を確保する上でも避けて通れない大きな課題であり、現在のグリーンベル21を「仮庁舎」とすることは**選択肢の一つであると認識**していますが、今後、第五次総合計画に位置づけた庁舎整備検討事業の中で、庁舎の移転及び建て替えについて幅広い視点で検討し、「仮庁舎」の問題についても、規模や場所、整備費用等の諸課題を踏まえ、総合的に検討していく考えです。



「短期利用」か「中期活用」かで位置付けは大きく違います。

グリーンベル21を「仮庁舎」とすることは**選択肢の一つであると認識**…との回答でしたので、その内容を聞いてみると、本当に一般的に言う「可能性がない訳ではない」位のニュアンスでしたので、「本庁舎ができるまでの数年間の仮庁舎としての「利用」ですか、それとも「西の商業核」として一定の期間（20年程）は、本町通りの活性化のための大きな一助として「活用」していく考えですか？」と聞いたところ、市長は、「本庁舎をどうするかは、重要な問題で軽々に結論は出せない。」とのこと。

ここでもまた、議論が堂々巡りの迷路に入り込んでしまいました。

耐震改修促進計画の進め方と安心安全の確保について

高柳Q：私が一般質問した前回、平成23年以降の耐震促進検討委員会の具体的検討内容の経過と計画の進捗状況について伺います。

市長A：耐震改修促進計画が、策定後5カ年を経過したこともあり、建築物等耐震化推進会議等を適宜開催する中で、目標値に対する現状の把握や予算化、沼田市第5次総合計画との整合性を図るための改定等を行い、本計画の推進に努めています。

東原庁舎の安全性の確保策は講じられたのですか？

高柳Q：東原庁舎は、もともと県の庁舎で、危険だから下町へ移転した訳です。沼田市はここへ、高齢福祉、社会福祉、子育て支援関連の担当部局が、県にお金を払って入っているわけで「県へ安全策の要望をすべき」と平成24年に質問しましたが、その後の回答はどうでしたか？

総務部A：要請はしましたが、現在まで明確な返答はありません。

高柳Q：当然ですよ。返答などできないと思います。私が言いたいことは、県に安全策を乞うのではなく、（県に年間数百万もの賃料を払って危険なところにいるのではなく）街の中心に広くて安全で、格安？の物件があるわけだから、財政の面からも、耐震性の面からも合理的な判断と私は考えます。



築50年が経過し、老朽化が著しい東原庁舎

中心市街地関連予算大幅増額問題

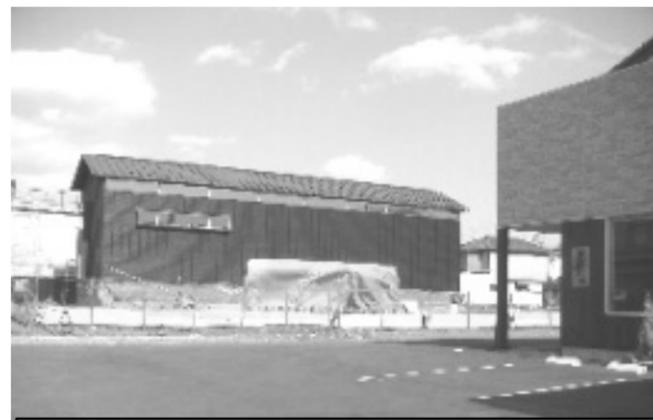
こちら、またまた、何故???平成25年明け、新年になった途端、「君子豹変す?」とも受け取れる、変身した発言ぶりで新聞等を賑わしました。

高柳Q：市長は、去る1月7日新年賀詞交歓会において、中心市街地関連予算をこれまで平均約2億円から、倍額の4億円として今後8年間持続させる考えを述べました。

随分思い切って関連予算を重点配分したと思う反面、これでも計画期間である平成33年までには、関連予算総額に遠く及ばないと思うわけですが、その乖離についての根拠や理由、そしてどう調整を図っていくかなどを詳しく説明願いたいと思います。

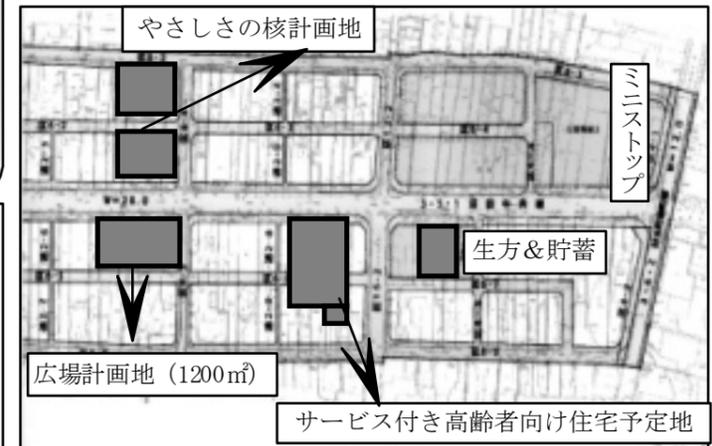
また、この事業（中心市街地土地地区画整理事業）も相当遅れていて、加速させることについて異を唱えるものではありませんが、事業進捗の遅延の分析や事業内容の見直しをつぶさに行いながら、市街地の活性化が市民全体から歓迎される手法と手順になることを願うものです。そうした観点から、計画実行を加速させるための具体的な方法についてもお聞かせください。

市長A：昨年年9月定例市議会において、土地地区画整理事業における2街区・4街区の仮換地指定及び建物調査の速やかな実施の請願が採択されたことを受け、2街区及び4街区の整備を早急に図っていくために、中心市街地街なか再生関連事業並びに中心市街地土地地区画整理事業について、これまでは約2億円で計画していた毎年の事業費を、約4億円に変更したものです。



当初のイメージとは相当変化した生方記念文庫

中心市街地図（中町・上之町）



※お詫びと訂正前号（45号）でサービス付き高齢者向け住宅等の建設予定地上図の「広場地域」として掲載してしまいました。

不勉強と慎重さに欠けることと合わせて、訂正させていただきます。

市長A：中心市街地土地地区画整理事業につきましては、現在の計画事業費総額が約148億円、平成25年度末までの実施済み事業費が約63億円、残事業費が約85億円の見込みとなっています。

先ほど答弁しました年間約4億円の事業費は、2街区及び4街区の整備を早急に図っていくためであり、残事業費との乖離については、今後の財政事情を勘案した上で、事業計画の変更により解消していきたいと考えています。

事業実施のための体制拡充も視野に入れた上で、市の財政状況を勘案しながら、可能な限り事業費の確保に努めて行く考えです。



よ〜く精査したら、あと8年でこの事業の完成は困難？

だから、H24年の一般質問で、この事業の期間延長の申請だけでなく、「現実を直視した」コンパクトで、現在ある社会インフラであるグリーンベルの中に「やさしさの核」を具体化して変更し、障害者や高齢者、子育て支援のための事業としてリメイクし、その経費を大幅に軽減させることにしたほうが良いですよと提言したはずです。

「可能な限りの事業費の確保」でも大幅に不足する「計画」とは何を意味するのでしょうか。